

大麦栽培管理情報(第2号)

平成29年10月
アルプス農協管内農業技術者協議会

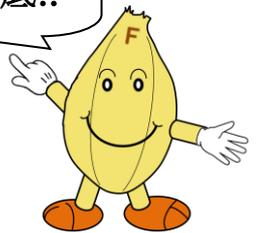
大麦の播種は9月下旬から始まり、適期に播種された圃場では、出芽・苗立ちは良好で、概ね順調に生育しています。

今後は、排水溝の手直しなど排水対策を徹底し、生育量の確保に努めましょう。また、分施肥体系の場合は、播種後1か月を目安に追肥を遅れないように施用しましょう。

1 排水対策の再確認

- 排水溝が排水口まで連結されているかを再度確認し、ほ場内に水が溜まらないように随時手直ししましょう。
- 降雨後に停滞水が残るようであれば、溝を深く掘り下げたり、新たな溝を掘るなどして、早急に圃場外へ排水しましょう。

大麦栽培の基本は
排水対策の徹底!!



2 年内追肥(分施肥体系の場合のみ実施)

越冬前に適正な生育量を確保するため、播種後1ヶ月頃の追肥を遅れずに施用しましょう。

施肥時期	肥料名	施用量(10aあたり)
播種後1ヶ月頃	硫安	20kg

※LP大麦48号を施用している場合は**必要ありません**。

次の場合はJAアルプス各営農センターへご相談下さい。

- LP大麦48号が規定量入らず、莖数が少なく葉色が薄い場合
- 分施肥体系で12月上旬に莖数が少なく(500本/m²以下)、葉色が薄い場合